

平成 28 年 3 月 17 日

鳥取県知事 平井 伸治 殿

鳥取県経済同友会東部地区

代表幹事 米 原 正 明

### 鳥取県立美術館への提言

鳥取県立美術館の建設は、多くの県民が長年望んできたところでもあります。

しかるに現在、県内各地での立地案が錯綜し、立地場所を巡って綱引きで争っている様相を呈しております。

立地場所についての話題が先行し、本来最も大切な「どのような美術館を作るか」という理念について、県民の議論・合意が後回しになっております。このままでは、立地決定後、県内で遺恨を残す可能性があり、危惧されます。

基本構想検討委員会においても、各市町村に対し候補地を提出させる方針にしておりますが、このような方式で立地場所を選定することは、各市町村を競わせ、綱引きを煽るような結果になりかねません。

県立美術館の整備については拙速を避け、美術館の理念から議論をしなおし、県内合意を優先させるべきであります。

以 上

(参考)

## 当会の考える県立美術館（県立博物館）の理念

新しく建設する県立美術館には、県民に愛され誇りにされる、ユニークな理念が必要です。それは、自然博物館、歴史博物館も同様です。

県立美術館、博物館の整備は鳥取県の文化・教育面での大きな柱となり得るものです。

本来「美」は、自然や歴史、生活や人の思いと渾然一体なものであり、美術品だけを切り離すべきではありません。美術品だけでなく、その背景にある自然・歴史なども絡めてテーマとすれば、他のどこにもないユニークかつ、県民の愛着と誇りを育むものとなりえます。

鳥取県立博物館が培ってきた歴史的な強みを活かし、美術館・自然博物館・歴史博物館を一体として運営されてきた県立博物館の伝統を継承し、全国に誇る美術館とすることが必要です。